

第 639 回：日本人の私が英語を話せるようになるまで パート 3 (MK)

前回『日本人の私が英語を話せるようになるまで パート 2』では、実際に私が効果を感じた英語の学習法についてお話ししました。今回のパート 3 では、英語学習を続けるうえで私が大切だと感じている「考え方」や「心構え」を私自身の経験をもとにご紹介します。

まず、英語を使う上で知っておきたい考え方の一つが、「ハイコンテキスト」と「ローコンテキスト」の違いです。例えば、エリン・メイヤー氏の『カルチャーマップ』では、コミュニケーションスタイルをハイコンテキストとローコンテキストに分類しています。その中で、日本は世界で最もハイコンテキストな文化として位置づけられています。一方、アメリカは最もローコンテキストな文化の一つとして紹介されており、その後にオーストラリアやカナダなどが続きます。

ハイコンテキストとは、言葉にされていない背景や状況、相手の表情や雰囲気などから意味を読み取るコミュニケーションです。一方、ローコンテキストとは、自分の考えや意図を言葉で明確に伝えるコミュニケーションです。日本では、相手が状況や空気を読み取ってくれることを前提に、あえて細かく説明しない場面がありますが、英語では自分の考えや理由を言葉にして伝えることが重要になります。

だから、英語で会話をしていて相手に伝わっていないと感じた場合は、いつもより詳しく説明することがおすすめです。日本語の感覚で言葉を省略すると、相手には情報が不足することがあります。「何を伝え

たいのか」「なぜそう思うのか」言葉にすることで、より円滑なコミュニケーションにつながります。英語では、単語や文法の知識を増やすだけでなく、相手に伝わる表現を意識することも大切です。

日本人の中には、英単語の意味を理解できたり英文を読めたりしても実際の会話になると英語が出てこないという経験をする人が多くいます。その理由の一つが、受容語彙と発信語彙の違いです。受容語彙は理解できる単語、発信語彙は自分で使える単語のことです。英語で会話をするには、単語の意味を覚えるだけでなく、実際に文章を作ったり声に出したりして、使える単語を増やすことが大切です。

最後に、英語学習を続けるうえで大切なのが「自己効力感」です。自己効力感とは、「自分ならできる」と信じる感覚のことです。英語学習では、理想通りに進まないこともあります。しかし、以前より英会話がスムーズになったり、TOEIC の点数が少し上がったりした時は、その成長を自分で認めることが大切です。小さな成功体験を積み重ねることで、自信につながり、楽しく学習を続けることができます。『日本人の私が英語を話せるようになるまで』シリーズは今回で終了です。

もうすぐ夏休みが始まります。時間に余裕があるこの機会に、今回紹介した英語学習法の中から、自分に合ったものをぜひ試してみてください。英語力は一日で大きく変わるものではありませんが、小さな積み重ねが将来の大きな成長につながります。皆さんの英語学習を応援しています。